SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

小島郁生著"恐竜からマンモスまで"：図鑑・太古に消えた動物たち

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026068

岩　石　園

ＰＴＡの委員さんが，トラックを運転して伊豆まで行ってくれることになった。さて，大仁で狩野川の河原に下りて迷った。どれもこれも安山岩に相違ないが，これぞというものはなかなかない。ここですっかり時間をくってしまい，小室山で棒石を頂戴し，清水（しょみず）でレピドシクリナを拾ったら，それでお帰りの時刻と相成った。

「先生。この車は乳牛３頭ぐらい積むのだぜ。たったこれだけじゃ車が泣くよ。」

賤　機　翡　翠

ぎんなんをむいたような翡翠の美しさには，女性ならでもうっとりとしてしまう。

某月某日，来客あり。「賤機翡翠というものだそうですが，指輪になりましょうか。」見せて貰ったところ，玄武岩の中に自変成による緑泥石らしきものが，点々と散っている。

「お金をかけるほど値打ちのものではないようです。」と，答えたが，翡翠を欲しいと思っているわたしにも残念なことだった。

一　つ　覚　え

枕状溶岩を覚えると，河原の転石まで枕状溶岩に，鏡肌を覚えると，すべすべしているところはどこも鏡肌に見えてくる。そこで兵隊の頃を思いだした。

「看護兵殿，肩がはれました。」

「ヨーチンを塗れ。」

「看護兵殿，むし歯が痛みます。」

「ヨーチンを塗れ。」

「看護兵殿，恋の病です。」

看護兵殿はスッと立上り，不動の姿勢をとって，ピンセットを指揮刀のようにかまえ，号令した。

「ヨーチンををを……，塗れ!!」

＜新刊紹介＞

小　島　郁　生．著

〃恐竜からマンモスまで〃

— 図鑑・太古に消えた動物たち —

著者がのべているように，この本は古生物学のわかりにくい解説書でもなければ，生物進化を説くこむずかしい専門書でもない。サラリーマンや学生諸氏が通勤・通学の途上で，週刊誌やスポーツ新聞を買うかわりに手にとってどこからでも自由に拾い読みして楽しめるようにできている。こ

のごろは映画やテレビ・少年雑誌にいろいろ面白い怪獣が登場してくる。子供達と一緒にこれらの怪獣のモデルとなった太古の動物を探しあててみるのにも，この本は役立つかもしれない。

この本は3部からなり，第1部では新生代に栄えた哺乳類や鳥類が描かれており，マンモスのほか，カバ，サイ，ダチョウに似た動物や，キツネ大の馬の先祖などが登場する。第2部では中生代に現われた陸棲・水棲・肉食・草食など，さまざまな恐竜や，空とぶ翼竜，海をもぐる海竜，鳥類の祖先が描かれている。体重78トンの驚異的巨体を誇るブラキオサウルスから，恐竜・翼竜・ワニ・鳥の祖先といわれている体長1m余の小じんまりしたテコドントに至るまで，その顔ぶれは多士済々。第3部は古生代にさかのぼる。両生類・魚類・爬虫類や無脊椎動物（ゴキブリ・トンボ・サソリ）などの先祖が描かれている。

太古の動物などがどのように環境に順応して自らの体形をかえ，進化していったかを調べたい読者には，この本に掲げられている多くの図表がお手伝いをしてくれる。進化の問題に余り興味のない読者は，犯人を探し求めるシャロックホームズよろしく，太古の動物の骨格や諸器管の特徴やミイラや氷づけになった生体などを手がかりに，動物たちがどのような習性をもち，どのようにして外敵とたたかい，どのようなものを食べて子孫を残し，どのような環境のもとで生活していたかを探究し，想像されることをおすすめする。この本は動物たちが生きていた時代の光影を頭に描くのに手助けをしてくれ，読者を自由な幻想の世界へみちびいてくれるであろう。（四六版 210頁，380円，42年9月，徳間書店）

＜新刊紹介＞

亀井節夫．著

〃日本にも象がいたころ〃

（岩波新書645）

今日の日本には象は住みついていない。しかしながら日本の国土からは実にさまざまな象の化石が発見されている。このことから日本にもかっては象の繁栄した時代があったことが推測される。

本書はわが国における哺乳動物化石に関する権威者として，また野尻湖底の発掘調査の推進者として知られる著者によってまとめられたもので，全5章で構成されている。第1章〃日本にも象がいた〃では竜骨が象の化石であることが明らかにされた経緯，日本における化石象の研究とそれにまつわるいくつかの謎について述べられている。特に野尻湖底の発掘を通して，南方系のナウマン象が最終氷期の極相（約20000年前）の寒冷気候の中で，生き延びていたことが明らかにされたことが注目される。

第Ⅱ章〃象の生活はどのようなものか〃では象の鼻，象の体，象の歯，象の生活など，象に関する興味ある話題が取上げられている。現在の象の歯は水平交換であるが，古い型の化石象では乳歯・永久歯の区別があり，垂直交換をしていたこと，死期を察した象の集まるという「象の墓場」はないらしいなど，興味深く書き進められている。

第Ⅲ章では〃象はどのように進化して来たか〃が取上げられ，象の進化は体の大型化，脚の骨の長大化，指骨の巾の増大と長さの短縮，頭蓋の大化とそれに伴う頭部の短縮，下顎の伸長，鼻の伸長，